

附屬書類添付

530237

支08839番

530237

大正九年十一月廿五日發

主務政務局

公信第貳號

大正九年十一月十三日

在局子街分館

主任外務書記生山本永覺直

外務大臣子爵對内田康哉殿

東三省之於ケル塩務重要案件

上票減之期ニ付

本件、閣下今日吉林都督より北京中

央政府に稟請之ヲ候来ノ奉天省統

轄ノ措置亦方々撤之今後三省各別

在間嶋日本總領事館局子街分館

区方にて重税理シ度ノ裁、自別紙譯文、

通シ吉長日報、所載有之ヲ案照、

御参考及至及席送付スル可

MT 1614 6 1034

MT 1614 6 1033

REEL No. 1-0652

0225

東三省ノ鹽務辦理方ヲ区分スルノ議

東三省ノ鹽務章程ハ曩ニ政府ノ改正後中央政府ニ隸屬セシメ慣例ニヨリテ奉天省ノ統轄ニ歸セシメタルノ未ダ久シカラザルモ吉林省黑龍兩省ハ業ニ統治權ノ分立章程改革ニヨリ鹽務ノ如キ又奉天省ノ統治方ヲ改ムベキノ事情アリト

聞ク処ニ據レバ曩ニ吉林省ハ政府ニ電請シテ吉林省ノ鹽務ハ同省ニ於テ鹽務ノ帳簿報告等其一切ノ辦理ニ歸セシメントテ申議セリト然ルニ鹽稅ハ原未各省共中央政府ノ借款抵借權ヲ侵越スルヲ得サルモノニシテ吉林省モ又タ何等建言スル能ハザル者タリ而ルモ吉林省ハ土地廣闊ニシテ交通不便ヲ免レ

在間嶋日本總領事館局子街分館

ズ從テ鹽務ノ統轄ヲ奉天省ニ歸スルトセハ自然取扱上ノ周到ヲ缺キ失費多端ノ弊害ヲ免レ難ク且ツ吉林省毎年ノ歲入費ハ鹽稅ノ收入ヲ以テ經費ノ大宗ト為スルキモノナルニ尙將來ニ於テモ從前ノ如ク奉天省ノ操縱權ニ任シテ協濟ノ方法ニ出ツルトセハ吉林省鹽稅賦課ハ常ニ多額ニ達シ他ノ費途ヲ補足スル能ハザルマク從テ今後奉天省鹽稅ノ補足ニ充當シ未レルモノヲ扣除シ吉林省鹽稅剩餘ノ一部ヲ吉林省自治ノ辦法ニヨリ諸經費ニ流用セシムル件ハ即チ前未ノ弊害ヲ免ルヲ得バク而シテ帳簿報告又ハ鹽務取扱等ノ如キ直接中央政府ノ指令ヲ受ケ決シテ抵當權ヲ阻止スル処ナシト電請セル処アリタリ仍テ政府ハ已ニ該電請ノ件ヲ財務部ニ交付シテ調

MT 1614 6 1036

MT 1614 6 1035





530240

受03402册

大正元年豫月貳日 警務政務局

第六一六號

大正元年十一月二十四日

在奉天

總領事落合謙太郎

外務大臣子爵内田康哉殿

張錫鑾、政見報告ノ件

本月初趙爾巽ニ代リタル警署者奉天都督張錫鑾、着任勿々國民黨奉天支部、歡迎會ニ於テ一場ノ演述ヲ試ミタルコトニ關シテハ本月

在奉天日本總領事館

九日付機密公第三〇三号ヲ以テ報告差進置候處其後本月十一日五族共和聯合會奉天支部主催ニ係ル各政黨聯合歡迎會ニ臨ミ一場ノ政黨ニ對スル意見ヲ開述シ再彼カ在奉過去二十有餘年間仕官ノ緣故ヲ説キテ奉省人心ノ攬ヲ力ソタリ嗣テ彼ハ再日軍界ト提携スルノ手段トシテ在奉各巡防隊ヲ一律ニ新式陸軍ニ改編スルコト並ニ陸軍學堂ヲ設立シテ以テ軍事教育ノ普及ヲ期スルコトノ二條件ヲ以テシ更ニ官界各司ニ

MT

1614 6

1040

MT

1614 6

1039

REEL No. 1-0652

0229

結フ、上司ノ交替ニ伴フ官場動搖  
 ノ積弊ヲ廢スヘキヲ以テシタルニ因  
 リ彼カ、奉天ニ於ケル地位ハ今ヤ  
 頗ル鞏固ナリト云フモ不可ナキニ至  
 リリ尚ホ本月十六日北京中央政  
 府ハ張錫鑾ニ授クルニ奉天都  
 督ノ本任ヲ以テシタリ  
 而シテ本月十六日張都督ハ自ラ奉  
 天省議會ニ臨席シ其政見ヲ述  
 ヘテ曰ク  
 鄙人學識庸陋既ニ法政ノ智能  
 ヲ欠ク又經濟ノ才用鮮シ民國開  
 幕艱鉅ノ時ニ當リ仔育豈能ク  
 任ニ勝ヘン唯大總統ノ命令ヲ奉シ  
 本省都督ヲ權攝シ駕駘ヲ勉  
 竭セザルヲ得ス暫時之ヲ兼テ鄙  
 人此次任ニ奉ニ茲ニ將來ニ於テ  
 奉省施政ニ関シ畧見アリ今  
 日貴會ニ出席シ教ニテ梗概ヲ述  
 ヘ討論ヲ求メシ  
 一財政ニ就テ、中國現在ノ最モ支  
 持シ難キモノハ財政ニ如クハ莫シ今  
 生産事業業ニシテ資本ノ投スヘキモ  
 姑ク問ハズ即チ行政上ノ必要経  
 費モ亦補充元シ能ハサルノ勢アリ勢  
 既ニ斯ノ如ク何シ能ク立國スル

在奉天日本總領事館

MT 1614 6 1042

MT 1614 6 1041

う得んや然レトモ目前ノ危急ヲ救  
 ハント欲セハ経済政策ヲ舎テ、他  
 途ナン経済政策ニハ尚ホ純正  
 経済應用経済、二者アリ純正経  
 済ハ根本存ノミニ屬スト雖モ亦緩  
 シテ急ヲ救フ能ハス速ニ効ヲ收メ  
 十欲セハタ、應用経済ニ依ルヘキ  
 之應用経済モ亦資源ヲ開キ先費  
 ヲ節スル、兩端ニ外ナラス即チ常  
 時ニ在テハ資源ヲ開クヲ以テ首ト  
 ナシ而レテ時ニ経費ニ節減ヲ加  
 ルコト亦必要ナリトス故ニ鄙人ノ抱ク  
 所ノ経済政策モ亦先ツ節減主  
 義ヨリ着手シ而シテ後資源開  
 発ヲ議ス節減ノ一節ハ已ニ前總  
 督都督等屢次職負ノ淘汰ヲ  
 行ヒ固ヨリ已ニ節減シタルコト異  
 常ナラシモ鄙人蒞任後仍ホ情形  
 ヲ参酌シ若シ再ヒ裁減ヲ為シ  
 能フモノアラハ決シテ情實ヲ顧慮  
 スル見ヲ存セス凡ソ不急ノ謀ハ  
 皆暫ク停辦シ不急ノ費ハ皆  
 繰延ラ行ヒ萬々緩ニスヘカ  
 ルノ事ニシテ若シ経費不足ノ為  
 ノ故ニ衰頽スルニ至ルモ亦政策  
 宜シキヲ得んモノニアラス先ツ融通

在奉天日本總領事館

MT

1614 6

1044

MT

1614 6

1043

而理スヘキノニ總テ一錢ヲ用テハ必ス一  
 缺ノ効ヲ收ムルヲ期シ一事ヲ辦セハ  
 必ス一事ノ益ヲ獲ルヲ期スヘキノニ開源  
 ノ一端ハ根本ノ計ヲ圖ルモノニシテ各  
 種ノ實益政策當ニ次第ニ其手  
 行スヘシ然カモ收ムル効ハ恒ニ遲ク  
 頗ル急ヲ濟ヒ難シ目前ノ困難  
 ヲ舒クント欲セハ則チ超都督提  
 出ノ田賦整理領ノ一案塩稅加徴  
 ノ一案地籍書換ノ一案等ハ皆人民  
 ノ負担多カラスニテ國家裨益甚  
 大ナルモノナリ  
 一軍事上ニ就テ  
 奉省ハ兩強ニ介  
 在奉天日本總領事館  
 在ス國防ヲ鞏固ニスルハ固ヨリ軍ヲ  
 整理フルヲ以テ必要トナス又近頃始メ  
 テ蒙古ト講和シタルモ内憂未ダ  
 靖シセス強兵備ハラスコレ尤モ宜シ  
 キ所ニ非ラス只此國窮民困ノ秋  
 ニ當リ軍費ノ負担頗ル之ニ勝ヘ  
 ナル勢アリ查スルニ奉省毎半年ノ  
 軍費ノ支出ハ已ニ全省國家行政  
 經費ノ十分ノ六ヲ占ム宜シク樽節  
 ラカクヘク再ヒ増加スヘカラス  
 一實業上ノ意見ニ就テ  
 奉天ノ實  
 業ハ森林、礮山、墾荒、牧畜等皆  
 富リ地ニ藏シ原始不滅ノ実力アリ

MT

1614 6 1046

MT

1614 6 1045



故。日本人の富、滿洲ト稱ス。然カモ何項ノ實業タリト雖、必ス先ツ財ヲ投シテ後、生存子財ヲ得ヘク。現在、財政ノ困難已ニ極端ニ達ス。國家行政ニ必要ナル生活スラ、幾レト支持スヘカラス。焉ニソ、鉅大ノ資本ヲ實業ニ投シ、久遠ノ計ヲ為スヲ得レ。然レトモ、此、僞計ヲ為サシモ亦其策ヲ得タルモノニ非レハ、必ス効ヲ收ムルコト比較的速カナルヲ擇ヒ、先ツ一二ヲ奉行シ、以テ着手ノ端緒トナスヘキ也。工場ヲ設立シ、外觀ヲ粉飾シ、徒ラニ金錢ヲ耗費スルカ如キハ、實益無キノ舉ニシテ、カクノ如キハ、鄰人ノ取ラサル所也。一、民政上ノ意見ニ就テ、共和成立シ、人々皆國政ニ參與スルノ權アリ。然レトモ、智識ハ經驗ヲ積ミテ、始メテ深ク人オハ、閱歴ニヨリテ、出ツ自治機關ニ即チ國政ニ參與スルノ起點ニシテ、自ラ提倡鼓舞シ、國ノ為メオラ培養スヘキ也。タリ區域、廣キニ過ギ、人数、衆ニ過ク、レハ、狹リ、經費ヲ虛糜スルノミナラス、統制ノ効ヲ收メ、難シ故ニ、各國、自治制度、區域ハ皆相當ノ範圍アリ、人数モ皆一定

在奉天日本總領事館

MT 1614 6 1048

MT 1614 6 1047

ノ制限アリ奉省自治ヲ籌備シ  
 テヨリ茲ニ年アリ宜シク已成、機  
 關ニ就キ整頓ヲ加ヘ進行、策  
 勵ニ消極ヲ以テ職權ヲ放棄セ  
 ス積極ヲ以テ法律ヲ踰越セサ  
 レハ則人權自ラ振ヒ民智自ラ  
 開クヘシ

教育上ノ意見ニ就テ 國家ノ盛  
 衰、全ク教育ノ良否ニ視ルヘク  
 教育主義、一ニ専門ニ普及  
 ニ在リ専門教育ノ目的、少教人  
 ラ開通スルニ在リ高等ノ知識ハ  
 官吏ノ資格ヲ養成ス教育普  
 及、目的、多數人ニ必要、智識ハ  
 開通シ國民ノ資格ヲ養成ス  
 ルニ在リ中國官吏、固ヨリ専門  
 ノ知識ニ乏シ自ラ當ニ擴充スヘ  
 ク中國人民ハ尤モ必要、智識ニ  
 乏シ更ニ宜シク推廣スヘシ蓋シ  
 人民ハ國家ノ基礎ニシテ若シ必  
 要ノ智識アラハ皆以テ自ラ生産  
 ヲ謀リ國家ノ富強ヲ致スニ足  
 ン徒ラニ専門人才ヲ養成セハ官  
 吏ノ一徒ヲ作ルニ偏ス輕重本末  
 大ニ分別アリ鄙人ノ意見ハ普及  
 ラ重シスルニ在リ故ニ社會教育

在奉天日本總領事館

MT 1614 6 1050

MT 1614 6 1049

ヲ以テ入手ノ辦法トナスヘシ司法ノ一  
 事ハ合権獨立セルモノナレハ斯ノ如  
 キニ至リテハ鄰人ノ干与スル所ニ在  
 ラズシテ自ラ中央ノ法令ヲ遵守シ  
 全國ヲシテ一致セシムヘキ也  
 以上各種ノ意見ハ逐次繕陳シ  
 タリト雖モ同時ニ推行スルハ亦  
 策ノ得タムモノニ非ス權衡緩急  
 アリ其中尤モ財政ヲ以テ重トナス  
 蓋シ國家ノ存立ハ必ス一定ノ政策  
 ヲ以テ始終其目的ヲ貫徹スヘ  
 ク而シテ後其他ノ政策モ亦之ニ因  
 リテ解決シ互ニ牽制ヲ受ケテ  
 在奉天日本總領事館

ルナリ日俄ノ武装政策英米ノ商  
 業政策獨伊ノ工業政策ノ如  
 キ三者均シク國家富強ノ基也  
 然レトモ之ヲ我國現在ノ情形ニ按  
 スルニ皆適用セス何ヲ以テカ言フ  
 蓋シ我國ノ患フル所ハ負コシテ  
 約ヲ力ムルニ非レハ以テ目前ヲ維  
 持スルニ足ラス故ニ各種ノ政策ニ  
 對シ皆經濟政策ヲ以テ極細ト  
 ナス也其他人ヲ用フルニ賢才ヲ以  
 テシ親疏ヲ問ハス行政ハ敏活ヲ  
 期シ力ノテ繁榮重ヲ除クヘキ也鄰  
 人此ニ於テ自ラ策勵ヲ加ヘ尤モ

MT

1614 6 1052

MT

1614 6 1051

貴會ニ於テ此ニ對シ嚴密監察  
シ人ヲシテ行政ニ違フナキヲ知未心  
也シメヨ然ラハ上治日ニ臻リ新機  
日ニ進マン鄰人ノ政見大概如  
此尚貴會ノ贊助ヲ乞ヒ一致進  
行シテ以テ遠ハサルヲ一匡ハシトテ乞  
フコレ奉天ノ幸甚ニシテ民國ノ幸  
甚ナリ云々

尚ホ張都督カ官場各司道ニ宣  
言シタル大官ノ更迭ニ必ス伴フ  
ヘカリシ司道更迭ヲ行フカ如キ  
コトモ今送ノ慶実行ヲ見ルニ至  
ラス單ニ趙前都督ト共ニ奉天

在奉天日本總領事館

ヲ去リタル秘書廳長周肇祥  
ノ代リニ張都督ト共ニ天津ヨリ  
來奉セル前東辺道趙臣翼  
ヲ其後任ニ現慶支使榮石子ヲ  
同副廳長ニ任命シタル一事  
アハノミニシテ官場ノ動搖ハ未タ甚  
シク現ハレ来ラス

右報告申進候 敬具

MT 1614 6 | 1054 |

MT 1614 6 | 1053

530248

被受2146聯

3  
1917

宮

大正元年三月十日

機密第三九號

警政事務局

第一號

大正元年十一月廿七日

在鐵嶺

領事 青田寅平

外務大臣子爵内田康哉殿

青田寅平印

奉天都督更迭ニ對スル支那官民ノ意向ニ関シ報告ノ件

本件ニ関シ當館管内ノ状況ヲ調査スルニ趙前任都督ハ清帝室ニ對シ好意ヲ寄スルモノナリトノ感想ハ一般ニ保持セラレタルカ如クナレハ彼レカ辭

在鐵嶺日本帝國領事館

任ニ就テハ宗社党ヲ標榜スル者ノ如キニ取リテハ一打撃ヲナリト信セラレ候然レニ當地方ニ於ケル宗社党ト稱スルモノカ有力ナルモノナク只名ヲ之ニ假リテ實ハ馬賊行為ヲ爲サントセルモノニ過キカレハ元ト假名ノ便宜如何ノ如キハ彼等ノ顧慮スル處ニアラス專ラ掠奪ヲ主トスルモノナレハ今後モ馬賊輩カ之等種類ノ冒名的行動ニ出テ暴舉ヲ敢ラスルハ其跡ヲ絶ツコトヲ得カルモノト被存候數日前康平縣哈拉沁屯附近ニ於テ數百ノ暴徒蜂起シ法庫門駐屯ノ支那軍隊百餘名ハ既ニ討伐ノ爲メ同方面ニ出向セリ

支那官民ノ意向

MT

1614 6

1056

MT

1614 6

1055

REEL No. 1-0652

0237

トノ事ニシテ其性質ノ如何ナルモノナリヤ尚不明ナレトモ要スルニ近日東蒙古方面再ヒ暴徒ノ蜂起アリテ不安ナリトセラル、際ナレハ名ヲ何物ニカ假リテ掠奪ヲ逞ウセントスル馬賊輩ノ行爲ナルハシト想像セラレ候

張新都督ハ其以前奉天ニ於テ軍職ニ在リ從テ各地軍人間ニハ其新任ヲ歡迎セラル、カ如ク尚就任ト同時ニ大官連ニ多少ノ更迭アルハシトハ豫想セラル、所ナレトモ地方官ノ如キハ俄カニ更任ヲ見ルカ如キコトナカルハシトセラレ此方面極メテ鎮靜ニシテ只一部人士カ張都督カ武官出身ナレハ各地武人カ勢力ヲ得テ將

来多少ノ跋扈アルハキツ憂慮スル向ナキニアラサレトモ張ハ袁世凱ノ股肱ナレハ此際特更ニ心ニモナキ前帝室ノ再興ヲ夢ミルカ如キ態度ヲ示スヲ不利ナリトシ

各地有力ナル官民ニシテ今日マテ旧習ヲ脱セザルモノモ先剪髮ヲ断行シテ他意ナキヲ示シ尚張カ國民黨派ナルノ故ヲ以テ各地方ニ同党支部設置ヲ計畫シ以テ彼レニ寄ラントスルノ風ヲ續出致シ

居候  
右概況及御報告候 敬具

在職領日本帝國領事館

MT

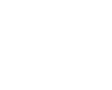
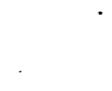
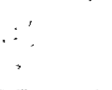
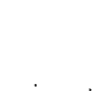
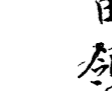
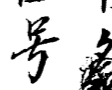
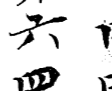
1614 6 1058

MT

1614 6 1057

530250

大臣  
次官  
政務  
通商  
人事  
會計  
取調  
報告  
條約



大正九年十二月五日  
午後五時一五  
安東 本署  
内田外務大臣  
吉田領事

十一月三十日通化縣城内縣署監獄ノ囚徒脱獄  
ヲ企テ其大部分ハ逃走セリ尚獄外ヨリ獄外囚  
徒ト相呼應シテ其脱獄ヲ容易ナラシメタルモ  
ノアリ尔後引續キ北方ノ物情籍ヲラサルカ如  
ク株木公司分局員モ出奔ヲ見合セ居レリ

上各名存  
〆

協

MT

1614 6

1059

新聞掲載御断り  
受第ニ二五九號

電報

青島後五時五分

張都督著任後、内外人皆

厚々各方面共頗ル円満ナルカ近來張作霖トノ間ニ多

少不和ノ生シタル傾アリ其ノ原因ハ一、張作霖ヨリ要求スル

兵備ノ充實ニ就キ都督、盡力豫期ノ如クナラサルコト

ニ都督、常ニ表世凱ヲ擔キテ其ノ命令ニ服從セシメ

ントシテ張作霖ハ時々之レニ從ハサルコト(例ハ騎兵一

午ヲ編成シテ開魯附近、蒙匪討伐ニ向ハシムハシト表

世凱ヨリ命令アリシモ張作霖ハ之レニ從ハサリキ)三約ニ

週間前張作霖部下ノ兵士カ屢々市中ニ於テ暴行

ヲ働ク爲メ巡警局商務總會ヨリノ陳情ニヨリ其

處罰ヲ迫ルモ張作霖ハ既ニ除隊セシ兵士ノ暴行ハ

軍隊ニ責任無シト答へ居ルコト四、都督カ近來南

方人ヲ採用シ殊ニ革命派ノ人物ニ重要ノ地位ヲ與

ハシコト五、都督ハ重要政務ニツキニ三、幕僚ニノミ

MT

1614 6

1061

MT

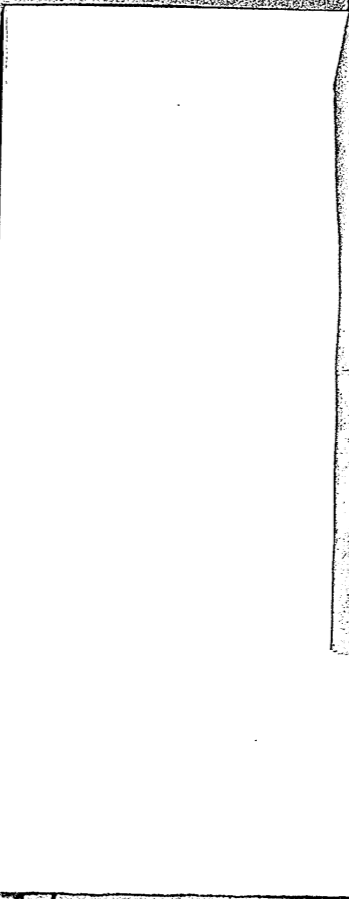
1614 6

1060

手紙の宛先が不明  
1914年6月



張作霖  
張作霖は、奉天省の出身で、東北軍の創設者として知られる。この写真は、張作霖の肖像画である。



五時五分  
一時的に...

址



張作霖  
張作霖の肖像画。

張作霖總長

奉天省長張作霖

張作霖督署任後、内外人の人生

厚、各方面共願、月滿ナリ、近來張作霖トノ間ニ多

少不和、生レシ、傾アリ、其ノ原因ハ、張作霖ヨリ要求スル

兵備ノ充實ニ就キ、都督、盡力豫期、如クナラサルコト

ニ、都督、常ニ袁世凱ヲ擔キテ、其ノ命令ニ服從セシメ

シトシテ張作霖ハ時々之レニ從ハサルコト(例ハ、騎兵一

午ヲ編成シテ開魯附近、蒙匪討伐ニ向ヒシムシト袁

世凱ヨリ命令アリシモ張作霖ハ之レニ從ハサルキ)三約ニ

週間前張作霖部下ノ兵士カ屢々市中ニ於テ暴行

ヲ働ク爲メ巡警局高務總會ヨリ、陳情ニヨリ其

處罰ヲ迫ルモ張作霖ハ既ニ除隊セシ兵士ノ暴行ハ

軍隊ニ責任無シト答ヘ居ルコト、四都督カ近來南

方人ヲ採用シ殊ニ革命派ノ人物ニ重要ノ地位ヲ與

ハシコト、五都督ハ重要政務ニツキニ三、幕僚ニノミ



1614 6

1061



1614 6

1060

530251

相談決行スルコト右ノ内最後ノ一項ハ作霖不子最大  
原因ナルカ如シ

MT

1614 6 1062

REEL No. 1-0652

0242

5  
8

530252 09911

大正元年三月七日 總務部

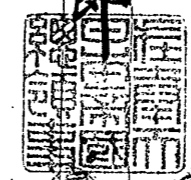
公第 六三三 號

大正元年十二月二日

在奉天

總領事 落合謙太郎

外務大臣子爵内田康哉殿



前交渉使孫葆璠彈劾  
被免ニ関スル件

曩キニ奉天都督ノ事務ヲ張錫  
鑾ニ引継キ當地ヲ去リタル趙爾  
巽ハ愈々十一月十六日付ヲ以テ奉  
天都督ノ印ヲ解カレ同時ニ張

在奉天日本總領事館

錫鑾ハ暫署都督ヨリ本官ニ陞  
任シ上將銜ヲ加ヘラレタルカ更ニ  
同日付ヲ以テ前趙督ノ彈劾ニヨ  
リ新政府稅捐局總弁前交渉使孫  
葆璠ハ突然軍器ニ對スル護照ノ  
乱發及軍政界ヲ煽動スルノ行為  
アリトノ理由ノ下ニ免官ノ上驅逐  
回籍ヲ命ゼラレタリシカ孫ハ其所屬  
國民黨ニ運動スルノ外別記辯明  
書ヲ呈出シ張新都督ヲ通ジテ究  
ラ聖カントコトヲ願ヒ居リタリ張錫  
鑾ハ調査ノ結果孫ニ於テハ呈稱ノ  
如キ情弊ナレトテ袁世凱ニ上申ス

MT

1614 6 1064

MT

1614 6 1063

REEL No. 1-0652

0243

ルナルベク孫ハ多分聖寬セラルベシ  
トノコトニ有之而シテ孫葆璿ハ趙爾  
巽トノ關係ハ趙爾巽ハ往年將軍ト  
シテ奉天奉スルヤ孫ハ交渉總局  
ニ總辦トシテ對日交渉ノ任ニ當リ  
日露和成テ兩國ノ撤兵トナルヤ  
新ニ洮南ニ知府トシテ辺境開墾  
ノ任ニ當ルコト六年余成績ノ多  
少見ルヤキモノアリト稱セラレフ  
アリシカ趙ノ再ニ總督トシテ東省ニ  
來任スルヤ再ニ知府トシテ奉天ニ  
召還セラレ本年二月更ニ交渉司  
ニ任セラレタリ而シテ表面年老ニ

在奉天日本總領事館

交渉日ニ繁ニ重任ニ堪ヘザラシ  
トシ七月于冲漢代ハリタルカ此  
交渉タルヤ事實張ノ股肱タル當  
時塩運使兼巡警總局督辦周肇  
祥トノ衝突ニ起因セルモノ、如ク  
後チ周ノ名聲漸ク失墜シ奉天  
天省人ノ怨府トナリシ頃東蒙ノ  
乱起レルニ至リ趙ハ孫ヲシテ蒙古  
宣撫使トシテ奉天ヲ去ラシメ  
シトセシテ孫ハ重任堪エル能ハザル  
シ名トナシ辭シテ赴カズ當地開  
埠局内ニ任スルコト約ニヶ月餘  
ナリシガ其後新民稅局ノ總辦

MT 1614 6 1066

MT 1614 6 1065

ラ命セラレ任ニ赴ケルモ再ニ張錫  
 鑾ノ未任ニ從ヒ入奉シ居リタルニ  
 突然今因ノ命令ヲ受クルニ至レル  
 者ニシテ此等成行ノ原因ヲ推測  
 スルニ趙ノ手足タル周ノ奉省人士  
 ノ為ニ是非ノ評ヲ蒙ルニ至リ凡テノ  
 官公職ヲ擲チ公署秘書廳長ニ身  
 ラ潜メザルベカラザルニ至リ趙爾巽  
 又近時省議會議員ヨリ公金使途  
 ノ模糊曖昧ナルヲ訛謗セラレハノ  
 非ヲ来セルハ裡面必ス之ヲ教唆ス  
 ルモノアリ彼孫モ亦其ノ一人ナラン  
 ト推シ特ニ孫カ日本人間ニ交友多  
 ク其ノ性行親日的ナルト且ツ屢密  
 カニ旅順方面ニ赴キタル等ハ固一  
 派ノ謀知スル所ニテ痛ク一派ノ惡  
 感ヲ買ヒタル者ノ如ク此輩等ノ  
 運動ヲ主トシ其他趙ノ嫌惡ニヨ  
 リ趙ガ離奉セントスルニ際シ孫ノ  
 交渉使在任中蒙古王ニ發給スル  
 ル軍火購買輸送ニ對スル護照  
 シ東蒙暴亂事件ニ結合シ又軍  
 政兩界中ニ詭辯ヲ弄スルヲ表面  
 ノ理由トシテ彈効スルニ至レルモ  
 ノナルカ如シ

右友御報告候 敬具

在奉天日本總領事館

MT 1614 6 1068

MT 1614 6 1067

孫葆璠上申辨明書譯文

辨明書ヲ呈ス本月十八日奉天公報  
 中十六日付大總統令有之奉天都督  
 趙爾巽ノ上申書ニ依レハ現任新民  
 府稅局總辦ニシテ候補道洮南府知  
 府孫葆璠ハ前ニ交渉司ニ署理タルノ  
 時屢護照ヲ擅ニ下付シテ軍器ノ密  
 運ヲ許セルコトアリ又近來官職ヲ失  
 ハシコトヲ患ヒ軍政兩界中ニ是非  
 播弄シ大局ヲ顧ザルヲ以テ官職ヲ  
 褫ヒテ原籍ニ驅逐歸去セシメ奉天  
 ニ逗留スルヲ許可セラレザラシコトヲ  
 請フト即チ之ヲ裁可去々ト葆璠

在奉天日本總領事館

ハ本命ヲ受ケ一讀ノ下寛抑殊ニ  
 深ク覺エ本年三月十三日付大總  
 統令ヲ謹讀スルニ今ヤ民國ノ初基  
 ニシテ治ヲ致スノ原ハ首トシテ賢能  
 ラ任用シ弊害ヲ除クニ在リ近年  
 是非顛倒シ黜陟公平ヲ欠キ致々  
 然否々競争之レ事トスノ風大ニ起  
 ルニ至リ謹厚者ニ或ハ節ヲ貶シテ  
 以テ全ラ求メ巧滑者ハ益々狂奔シ  
 テ耻ヲ志レ官規紊レ職責全ク廢  
 タル傾覆スルノ因多ク此ニ基ク此  
 等ノ惡習ハ應ニ極力之ヲ根株ヲ絶  
 ツコトヲ務ムヘキナリ此ガ爲ニ通諭

MT

1614 6 1070

MT

1614 6 1069

百僚須ク知ベシ凡ソ各屬官員ハ  
 皆民ノ為ニ服務スル者ニシテ官規  
 具ニ備リ應ニ盡ベキ責任ヲ負ハ  
 ガルナキヲ特別ノ利アラズンハ何  
 ソ是非ノ希冀ヲ有シテ謂ナキノ  
 管束ヲ作ラ得ン況マ佐治需才  
 ノトキ果テ寸長ノ効ヲ有スルアラバ  
 奚ゾ棄テ去ラルハ患ヘンヤ自今以  
 後該管長タル者好惡ヲ以テ取舍  
 喜怒以テ進退セシムル勿レ若シ此  
 等ノ事實アラバ屬員ノ者ノ上申  
 訴告ヲ為スシ許ス又屬員ニシテ更  
 ニ長官ニ對シテ競争ヲ圖ル等ノコ  
 トアラハ必ス重罰以テ官紀ヲ肅清  
 スベシ常ニ現職ノ責ニ任ジ各自  
 誠意心ヲ治メ身ヲ束メ以テ自  
 愛シ本大統領ノ殷々誥戒ノ意ニ  
 背ク勿レ右訓達ス云々ト藤澤令  
 マ寛抑シ負シ以テ謹テ事情ヲ列  
 記シ都督ニ申訴シ逐一辯明セシ  
 トス查スルニ藤澤が署理奉天文  
 涉司タルノ時其任内下附セル所ノ  
 護照ハ東三省地方軍警用友日  
 本官憲ヨリノ全下附方請求アリ  
 タル者ヲ下附セル外ハ唯五月廿四日  
 蒙古卓哩魁高親王來奉シ鏡

在奉天日本總領事館

MT 1614 6 : 1072

MT 1614 6 : 1071

彈用ト稱シ當地ニテ銃四彈丸貳千  
 發シ購ヒタルニ對スル分ト又六月廿  
 三日該王ガ韓委員ヲ特派シ來リ  
 全司ニ出頭セシテ地方不穩ノ故ヲ  
 以テ獨逸商人ヨリ彈丸五千發シ  
 買入ルニ與ヘタルト云七月二日博王  
 即チ阿穆爾靈王ガ人ヲ派シ公文ヲ  
 送り前ニ都督ヨリ軍器ノ下附ヲ  
 受ケ地方保衛中ナルカテヤ日本  
 商人大矢組洋行ト彈丸十萬發  
 購買ノ契約ヲ訂結シタルヲ以テ  
 護照ノ下附方取計ハレタシト云フ  
 ニ對シ下附セル者ノ過ギス凡ソ  
 在奉天日本總領事館  
 前記護照ハ公ニ從ヒ例ニ照シテ  
 下付セルモノニシテ決シテ密輸ノモ  
 ノニアラズ且ツ其時日タル朱鎮  
 兩旗ノ肇亂ノ期ト距ルコト遠シ  
 嗣テ該彈丸ハ久シク運輸セラレバ  
 該洋商亦交付セザルコトアリ軍械  
 局ニ於テ評價轉賣セリ以上ノ事  
 實何ソ護照ヲ亂發シテ密輸ス  
 ルニ任セタル事實ナリトセンヤ本件  
 ニ關シテハ一件書類ノ存置セラレ  
 ハアルニアリ査閲シ給テハ即チ明白  
 スベシ又近來官職ヲ失ハントスルシ  
 患ヒ軍政各界ニ於テ是非ヲ播弄

MT 1614 6 1074

MT 1614 6 1073



シ大局ヲ顧ストノ件ニ就テハ蔣璠  
ノ東三省ニ在ルコト十三年ニシテ趙  
督前ニ奉命時蔣璠ハ交渉官殿  
修理造幣造幣等濟賑捐等ノ要  
職ヲ命ゼラレ且ツ驛造道ヲ臨時  
代理シ又全省發審處總弁ヲ兼  
テ次ヲ命ニヨリ洮南府ニ赴キ守刃  
六年復テ趙督ノ重命ニ值ヒ蔣  
蔣璠大ニ成績アリトセラレ未  
數月ナラズシテ洮南ヨリ首府ニ轉  
任ヲ命ゼラレ次テ交渉司ノ任ニ當  
リ更ニ交渉司ノ任ヲ引継ニ際シ  
趙督ハ蒙旗乱ヲ起スアリ蔣璠  
ノ久ク洮南ニ在リタルノ故ヲ以テ  
蒙旗ノ撫諭方ヲ命セラレ次テ戰  
既ニ開キタルノ故ニ改テ新民稅捐  
局ノ事ヲ委任サル趙督ノ蔣璠  
於ケル蓋シ加アリテ止ナキアリ蔣璠  
ノ趙督ニ對スル之ヲ感激スル所  
アルニ官職ヲ失フヲ患ルカ如キヲ思  
フノ違アラシキ奉天省ノ軍政西界  
従来融洽ニシテ其間所謂是北ノ  
存スルアラズ偶々微精アルモ或ハ趙  
督ノ好惡喜怒ニ因ルモノナルコトハ  
政界中既ニ公論アリ昭々トシテ  
人ノ耳目ニ在リ又何ゾ播弄ニヨ

在奉天日本總領事館

MT 1614 6 1076

MT 1614 6 1075

ルニアランヤ此外何等ノ事實アルカ  
 解スルニ苦ム處民國肇興ノ時奉  
 天省共和久ク解決セズ葆璿趙督  
 下共ニ其間奉天省ノ秩序ヲ維持  
 セルハ各省ニ冠タリ葆璿趙大  
 ノ為ニ幸トスト思ヘルニ意ニ加  
 局ヲ顧ガルノ罪ヲ以セラル之レ趙督  
 ハ左右ノ者ニ誤リ説カレタルヲ知  
 ガルモノ、如シ其ノ被免ノ辞句實  
 ニ甚シ查スルニ前清專制時代ニ於  
 テ凡ソ各属ノ免ゼラレタルモノ、寬  
 抑アル者ハ都察院ヨリ申請シテ  
 代呈スルヲ許シ居リシガ茲ニ民國  
 在奉天日本總領事館

更始ニ當リ三月十三日ノ命令内  
 ニ属員ニ對シテ其申請ヲ許シ與  
 大ルノ一語アルハ大統領カ將來  
 豫防シ方里ヲ明見セラレタルモノ  
 ト仰讀セリ葆璿既ニ免抑ツ負ノ  
 シ以テ理合ニ事情ヲ具シ上申ス  
 ベシ都督ニ於テ査核ノ上大總統  
 ニ轉呈セラレシコトヲ請フ大總統  
 亦暨査核人ヲ派シ確實ニ調査セ  
 レ以テ黜陟ノ公平ヲ昭セラルレバ  
 民國ノ幸甚ナリ右葆璿上申ス

MT 1614 6 1078

MT 1614 6 1077









530264

被受2289 聯

大正元年三月拾日發

警務局

第一號

機密第一六號

阿語

印

大正元年十二月四日

在滿洲哈爾濱

領事館事務代理吉原大藏

吉原大藏印

外務大臣子爵内田康哉殿

里龍江省內呼蘭綏化巴彥州地方に於ける  
破壊黨陰謀計畫に關する報告ノ件

當省內呼蘭綏化巴彥州地方に破壊黨  
ノ事ヲ舉ゲントスルノ計畫有アルコ  
トハ前任井原領事ヨリ屢次電報致

主簿等合稱日本音圖頁事官

MT 1614 6 r 1085

REEL No. 1-0652

0255

置候次第有之候處十一月二十七日附呼  
 蘭茲當館密偵ノ報告ヨリハ所謂  
 破壊黨ナルモノハ國家ヲ破壊セシト  
 スル黨派ニアラスシテ都督宋小濂及  
 軍政處長徐鼎霖等ノ對スル不平黨  
 員ニシテ黑龍江省政府ヲ破壊セシトス  
 ルノ主義ヲ持シ彼等黨員ハ已ニ該地  
 駐防ノ軍隊ト聯絡セシノコトナラス又馬  
 賊ト氣脈ヲ通スルニ至リシヲ以テ漸次  
 其勢力ヲ増加シ來リ形勢不穩ナリト云フ  
 右為御參考及報告候 敬具

追テ本信寫ハ北京公使哈爾賓總領事  
 へ送付致置候條為念申上候

大連小森文士支店印行

MT 1614 6 1086



第3

四六

受第三二七六號

電報

十二月十九日

參謀總長宛

在奉天

佐藤中佐

于冲漢辭職之唐寶述之後任トナルニキト

ノ事アリ

三形白

梅

MT 1614 6 1087

REEL No. 1-0652

0257

530266

受10987號

大正元年三月廿壹日接受

主務政務局

取調書

大正元年十二月十三日

在局子街分館

主任外務書記官岩永覺重

外務大臣子爵内田康哉殿

地方審判廳長及地方檢察廳長更迭  
之件

在清國地方審判廳長陳榮及同檢察廳長毛鳴珊、兩官今因辭職歸鄉、付其後任下、審判廳長、鄧

在間嶋日本領事館

廣澤、檢察廳長、旅順炳章、在者  
矣、程吉林、署任、昨十三日、檢、  
為、小官、致、來、訪、其、多、新、任、兩、名、  
自、本、邦、留、學、之、部、法、政、大、學、子、  
齋、川、東、洋、大、學、子、等、業、生、由、有、三、名、  
右、脚、參、考、近、報、告、申、進、其、部、

MT 1614 6 1089

MT 1614 6 1088

REEL No. 1-0652

0258

大正元年三月廿一日接獲

彈丸第七五號

大正元年十二月九日

在間島總領事館彈丸分館

主任外務通訳生清野長太郎



外務大臣子爵内田康哉殿

彈丸ニ於ケル浮浪者大檢舉ニ関スル件

秋冬期間露領及附近村落地方ニ於ケル出稼労働者ノ冬籠リ等ノタメ彈丸ニ鳥集シ來ルモノ多ク為メ市内ニ於テハ窃盜ノ遭難ヲ聞キ村落ニ於テハ強盜ノ出没ヲ見ルモノ漸ク多キヲ致スハ例年ノ状態ナルモ

在外公館

彈丸廳ニ於テハ其所管ノ巡警ノミヲ以テシテハ大仕掛ノ浮浪者檢舉ヲナス能ハザルニ依リ駐屯陸軍及巡防隊ノ援助ヲ得テ隨時之ヲ行フ事トナシ既ニ其第一回ヲ九月十五日ニ行ヒタリシガ一昨七日又其第二回ヲ行ハタリ

去ル七日大檢舉日ノ當日ニ於テハ陸軍第九十標兵百五十名巡防兵七十名ヨリ成ル一團ハ未明ヨリ各々部署ヲ定メ彈丸市街ヲ圍繞シテ總テノ往出者ヲ断テ市内ハ處々ニ巡警ヲ配置シテ來往者ヲ見張り且ツ大商店ヲ除ク外ハ戸毎ニ取調ハ先器ヲ所持スル者阿片モルヒネヲ有スル者及

MT

1614 6 1091

MT

1614 6 1090

530268

530269

擧動不審ナル者ハ一併ニ先ツ逮捕シ  
 去リ午前一時全ク捜査検挙ヲ了セリ  
 而シテ當日遠捕拘置セラレタル者ハ總計  
 百余名ニ及ビ内本日迄ノ取調ハ於テ有  
 罪ト認メラレタルモノ十数名ヲ算セリトイハリ  
 琿春廳同知ハ右検擧日ノ前夜小官ハ書  
 状ヲ以テ此擧ヲ予告シ検擧中邦人並ニ  
 鮮人家屋内ニ支那人ノ進入ヲ禁セラレ度  
 旨依頼シ來リタルヲ以テ小官ハ其依頼ニ  
 應ジ捜査ノ便ヲ與ヒ置ケリ尚ホ同知ノ  
 談ニヨレバ今後ハ一ニテ月ニ一回機ヲ見テ  
 右ノ如キ検擧ヲ行フ都合ナリトノ事ナリ  
 右及報告候敬具

在外公館

追テ本報告書ハ在北京公使及在間島  
 總領事ハモ及送付置候

MT 1614 6 1093

MT 1614 6 1092

REEL No. 1-0652

0260

受11116號

大正元年三月廿三日

警務局

第一課

公債部ハ六號

大正元年十二月十四日

在瀋陽々哈爾濱

領事館事務代理吉原大藏



外務大臣子爵内田康哉殿

黑龍江省提學使任命及交渉總局  
總辦交替ノ旨ニ報告ノ件

當省提學使ハ革命事變後徐鳳書ノ署理  
スル處ナリシカ本月六日附大總統命令ヲ以テ同人  
ヲ本任提學使ニ任命セリ同人ハ多年交渉

正學部合圖日本帝國領事官

MT 1614 6 1094

REEL No. 1-0652

0261

530270

總局會辦トシテ前任巡撫周樹模時代ヨリ  
 當省ノ要政ニ于テ預シ外國語ニ通セスト雖モ  
 漢文ノ素養養深リ年一歲三十五歳ニシテ  
 將來有望ノ人物ナリ  
 尙交渉總局總辦張壽增ハ本月十日里河  
 道署理ヲ命ヤリ都督府秘書長干駒興  
 代リテ交渉總局總辦トナシテ張壽增ハ本年  
 蒙古兵ノ滿州里台領當時ノ鹽濱府知  
 府ニシテ西語ニ通シ西語國ノ事情ヲ知  
 悉セリ  
 干駒興ハ嘗テ哈爾濱鐵路交渉總局總辦  
 呼倫貝爾道台等ノ歴任シ昨年来交渉總  
 局總辦ソリシカ本年四月張壽増ト交替

(大連小林文七支店印行)

MT 1614 6 1095

し今回張ノ里河道ヲ署理スルニ及ヒ再ヒ同  
 人ト交替シテ交渉總局總辦トナシテ干  
 駒興ハ年一歲四十七歳温厚ノ人物ニシテ宋都督  
 ノ信用厚ク現ニ都督府秘書長ヲ兼務  
 セリ  
 右及報告候教具  
 追而本信寫ハ北京公使及哈爾濱總領事  
 一送附致置候為念申候

MT 1614 6 1096

正字等口録日本帝國領事官

REEL No. 1-0652

0262

新聞掲載御断

受第二二八四號

十二月二十四日午後四時五十分  
二十五日午前十一時二十五分着

參謀總長宛

在奉天 佐藤中佐

張都督就任以來中央政府ノ權力此ノ地ニ加ハリ重

ナル官吏ニ南方人ヲ任命スルニ多キ爲地方官民ノ

間ニ物議ヲ生シ殊ニ張作霖ハ從來奉天ノ官場ニ腐

敗ノ事實多キハ地方愛着ノ心ナキ南方官廳ノ

官吏力爲セルニト故他ノ各省ト同様東三省ノ事ハ

東山省人ヲ以テ辨セサル可カラスト主張シ屢々都

督ニ迫リ居ルモ其ノ効果薄ク都督ハ只管袁世

凱ノ意圖ヲ迎ヘントスルノミテ何等地方ニ對スル親

切心ナキ由ニテ近來大ニ憤慨シ居レリ一方ニ奉天

人タル交渉使于冲漢民政使孫百斛ノ辭職申

出ヲ思ヒ止ラシメ他方ニ新任命サレシ南方人ノ排斥

ニ努力ニツツアリ又張作霖ハ過般福島都督來訪

ノ折秘密面会ヲ求メ大ニ張都督ニ對スル不平ヲ列

ハ援助ヲ請ヒシモ都督ハ單ニ慰諭サレシノミテ何

等具體的ノ話ナカリシ爲頗ル失望ノ氣味アリ昨

MT

1614 6 1098

MT

1614 6 1097

530272

日小官ニ語りテ曰ク東方人ハ概ネ泥棒ノ如キ爾異  
ノ如キスラ賦金ノ財數萬ノ金ヲ拐帶セリ到底本省  
ノ利害ノ爲ニ専心働ク如キ人物アルナシ本省ハ貴  
國トノ關係最モ密接故本省人ノ代表者タル予及  
ト馬麟閣ト日本ノ代表者タル福島都督トニ依リ  
本省ニ関スル大事ヲ決スルニ若カストハ予ノ中心  
信スル所ナリト。對滿洲政策上張作霖利用ノ方針  
ヲ充分ニ御攻究ヲ必要ナリト思フ

MT

1614 6 1099

REEL No. 1-0652

0264



大正元年三月廿六日 接受

公第 五三五 號

大正元年十二月二十日

在奉天

總領事落合謙太郎

外務大臣子爵内田康武殿

支那官憲異動報告ノ件

都督交送ト共ニ各司道間ニ變動  
アハントノ風説有之候處本月十八日付  
大總統命令ヲ以テ當地塩運使張  
翼廷ノ辭任ヲ許シ鄧邦速ヲ任スル  
在奉天日本總領事館

昔昨十九日付ヲ以テ齊表セラルレ本日  
前任ヨリ其引継ヲ受ケタリト云フ今新  
任塩運使鄧邦速畧歴ヲ聞クニ左  
人ハ江蘇省江寧ノ人ニシテ翰林出身  
孝先ト号ス前ニ吉林交渉使タリシカ宣  
統元年四月 轉ニテ署理奉天交渉使  
トナリシモ今二年正月之ヲ辭シ今五月更ニ  
試署者吉林民政使トナリ今三年九月再  
ニ奉天 趙爾巽ノ下ニ文牘處々長  
トナリ今十一月軍械局總辦ヲ兼ネシカ  
動亂波及ズルニ及ヒ十二月廿日 辭去シ天  
津ニ去レル後其ノ行動ヲ審ニセサリシガ  
本年十月ノ頃各省財政調査委員

530273  
11867

MT

1614 6 1104

MT

1614 6 1109

REEL No. 1-0652

0265

530274

ナレモノ起ルニ及ヒ藥守綱ト共ニ東三省  
財政調査員トナリ奉中本任命  
ヲ見ルニ至レシモノナリト  
右及御報告候 敬具

在奉天日本總領事館

MT 1614 6 1102

REEL No. 1-0652

0266

530275

受11869號

大正元年十二月廿六日 獲

主務政務局

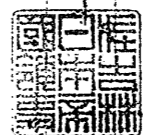
第一課

一六五

大正元年十二月二十日

在吉林

領事 林久佐郎



外務大臣ヲ爵内田原哉殿

永衡林業公司設立ノ關係件

今年夏吉林省官銀錢號、利益配當ノ關係ニ陳都督以下、各局者が會議會其他各方面有志、批難攻撃ヲ受テ以來吉林省官銀錢號、財産目錄及收支ハ人、漸ク注意スル処トナリ、特、同號ヨリ四合川森林採

在吉林日本領事館

目的ヲ以テ官設吉林林業總局、貸付タル四百ニテ五萬兩、該林業總局が事實上破下倒レタル今日ニ於テ、到商回收、見込ヲキテ以テ當局者ヨリ之カ善後策ヲ有議會ニ協議セル統果四合川、森林ハ既ニ採當流レトナリ官銀錢號、権内ニアルモノナリ以テ之カ採木事業ヲ經營シテ利益ヲ弊ケ欠損ヲ償フベキ計畫ヲ立テ其計畫官銀錢號、自ラ之ヲ監督シ三百萬兩、資金ヲ支出スルニ決定シ林業公司ヲ設立シ該號號カ素ト永衡官銀錢號ト稱セルニ因リ永衡林業公司ト名ケ陳都督ヨリ既ニ之カ役員ヲ任命セルカ總理ニ有

MT

1614 6 1104

MT

1614 6 1103

REEL No. 1-0652

0267

議會議長慶康任セラレタリ  
 慶總理、該ニヨルハ該公司計管、森林ハ  
 桂林河、上流四合川地方一帯ニシテ現  
 在、処ニテハ未タ伐採ニ開シ河等決定スル  
 所ナキハ如ク又官銀錢簿總理文録、漢  
 ニヨルハ有議會ハ該公司計管、タノニ百カ  
 吊支出スヘキコトヲ議決セルモ目下、財政状  
 態ニテハ到府斯、如キ多額、お貸ヲ許サ  
 ルヲ以テ先ツ名分ハ必要ニ感シテ五十萬吊ヲ  
 テハ支出スル務定テリト云ヘルカ氏同ニ於テハ該  
 公司該主ヲ以テ陳都督、有議會懐柔  
 策ニ出ラシムルニ過スレノ尊アリ  
 右及報告矣敬具

在吉林日本領事館

MT 1614 6 1105

文書課

大正元年四月 七日發

浄書校正 原厚 浄七

大正元年四月 七日接受

主務課

第一課

530277

秘受0015號

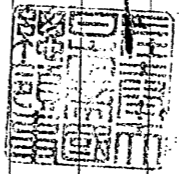
機密第三三四號

大正元年十二月二十七日

在奉天

總領事 首云法

外務大臣公函附桂太郎殿



奉天官界ノ近情ニ関スル件

奉天都督更迭ニ伴ヒ各司道大官ニモ大更迭アルベシトノ風説ハ事實トナラズ一二別段ノ意義無キ更迭ヲ見タルノ外率テ舊都督

在奉天日本總領事館

時以ノ俛ニシテ一先ツ落着キタルモノ、如キ天安具際ニ於テハ各司道及軍界共重要ノ位置ニ在ルモノハ孰レモ不安ノ念ヲ懷キ居リ孰レモ其位置ヲ安セズ大官更迭ノ風説ハ絶ハ不行ハル今各般ノ情報ニヨリ現今ノ状態カヲ觀測判断スルニ大要左ノ如クナラント思考ス  
新奉天都督張錫鑾ハ當者ニ官更タルコト頗ル久シク地方ノ事情ニ精通セリト雖前都督趙爾巽ガ子分トシテ支那ニ於テハ一流ノ人トシテ多數率ニ來リ縱横ニ腕ヲ振ハレメ得タルニ及レ張ハ軍界以外ニ在リテハ殆んど股肱ノ者ヲ有セザラシク以テ文官ノ操縦ニハ困難スルベシト評セラレ居候處軍界ニ最

MT

1614 6 1107

MT

1614 6 1106

REEL No. 1-0652

0269

力た張作霖一派スラ張錫慶ニ對シテ深キ  
 恩誼ヲ受ケタル關係アルニ係ハラズ近頃新都督  
 ノ措置ニ對シ甚ク不滿ヲ懷キ其間頗ル因滑  
 ナラズ動モスレバ都督ニ離反セトスル形勢ナキ  
 ニアラス蓋シ北京政府ガ趙爾巽ヲ罷メ代フル  
 ニ張錫慶ヲ以テ當地ノ都督ト為シタル一面  
 ノ目的ハ革命以來當地ノ兵權ヲ掌握シ權  
 威ヲ振ヒ動モスレバ北京政府ノ節度ニ服從セ  
 ザル張作霖一派ノ制馭ニ在リタルナラント察セ  
 ラルル處漸ヲ以テ中央集權ヲ行ハントスル北京  
 政府ノ計畫ト當地ニ占據シテ權勢ヲ恣ニ  
 セトスル張作霖一派ノ方針トハ根本ニ於テ相容レ  
 ザルモノアルヲ以テ此間ニ立ケテ張錫慶ガ袁大總  
 統ノ旨ヲ受ケ奉天官界ヲ騒革スルコトハ頗ル  
 困難ナルベト認テ張作霖ハ革命動亂ノ勃  
 發シタル頃ヨリ趙爾巽ニ用井ラント漸次重キ  
 ヲ加ヘ終ニハ勢力ヲ趙ヲ壓セントスルニ至リ其間或ハ  
 勤王主義ヲ唱ヘテ革命黨及急進黨ニ高壓ヲ  
 加ヘ或ハ自家ノ巡防隊ヲ師團ニ改編シテ自衛  
 機關ト共ニ師團長トナリ或ハ各司道其他高官  
 ノ交迭選任ニ容喙シテ趙爾巽都督ヲ苦メタルコト  
 アルモ其ノ一貫セル精神ハ自家ノ立場ヲ鞏固ナ  
 ラシメントスルニアリテ此目的ノ為メニハ奉天ノ官場ニ  
 東王者以外ノ出身者ヲ置クコトヲ忌ミ嫌ヒ特ニ  
 南清出身ノ者ガ當地ニ勢力ヲ得自家其節度  
 ニ服スルカ如キコトニハ絶対ニ反對シ斯ル場合ニハ

在奉天日本總領事館

MT 1614 6 1109

MT 1614 6 1108

寧口外國ノ勢力ヲ迎ヘテ之ニ倚頼スルヲ碎セザラ  
 ントスルノ意向アリ後テ張錫慶就任以來官吏ノ  
 補缺ニ勤モスレハ南清出身ノモノヲ用井トスル  
 ノ傾向アルヲ以テ張作霖ハ頗ル不平ニ堪ヘズ且自己  
 ノ將來ニ因シ煩悶シ居レリ本年五六月以降本  
 官トハ公會ニ相見ルノミナリシ張作霖ハ去月  
 ニ十日日本官ヲ訪ヒ來リ會談ノ末「若シ御用ア  
 ラバ何時ニテモ卷上スベシ御呼出アツタレト述ベ  
 ルコトアリ一德ノ操ニハアツザルガ如ク認メラレタリ  
 シガ其後本月十一日福島関東都督歸任ノ途次  
 當地ニ立寄ラレタル際張作霖ハ同都督ヲ訪問  
 シ張新都督ノ施設ニ對スル不平ヲ述ベ福島都  
 督ヨリ命令アラバ寧口日本ニ倚リテ運動セント  
 在奉天日本總領事館

ノ口氣ヲモ洩シ福島都督ヨリ穩和ナル説諭ヲ  
 受ケタル由ニテ此時ノ福島都督ノ態度冷淡ニ  
 過ギタリトテ張作霖ハ不満ナリト傳ヘタル同人  
 ハ尚ホ最近ニ佐藤滿鐵公所長ニ對シ新フル  
 所ノ要領ニ曰ク張錫慶ハ固ヨリ恩人ナレヲ以テ  
 反抗ナルコト能ハザル途頃ノ施設振ハ袁世凱ノ走  
 狗トナリ其ノ意ヲ迎ヘントスルニ汲々タルノミニシテ  
 奉天ノ為ニ憂慮スベキコト多シ第一一人ノ選擇  
 宜キヲ得ズ從來ノ經驗ニヨリ南方出身ノ者ニシ  
 テ當地ニ官吏タリレモノハ必ズ巨類ノ官金ヲ私  
 シテ持テ去ルヲ常トス趙爾巽ノ如キ周祥祥ノ  
 如キ眼前ノ例ナリ然ルニ最近鄧知述ヲ塩運  
 使ニ任命シ又營口ノ稅捐局總辦ニ南方人ヲ

MT 1614 6 1111

MT 1614 6 1110

用井トスルガ如キ即私蒙ヲ肥スニ都合ヨキ位置  
 ヲ南方人ニ與フルガ如キハ願ル其意ヲ得不奉天  
 省人斯レト雖官官場ヲ組織スル人材ニ乏シ  
 カランヤ斯ノ如キ形勢ニテハ當地ハ前途心許無  
 然ルニ當奉天省ヲ左右スルモノハ自分ト憑麟閣  
 ノ外ニアザルヲ以テ自分等ハ寧ロ他國ノ勢力ニ  
 倚リテ活動スルノ得策ナラザルヤ考ヘ居レリ而  
 レテ日本ガ當方面ニ巨大ノ利益ヲ有セルコトハ  
 誰モ彼モ熟知レ居ル所ナリト言ヒ暗ニ日本ニシテ彼  
 等ヲ用井トセバ之ニ應レテ活動シタキ意向ヲ  
 洩ラレ候是本年一月廿二日 往電第五一號ヲ  
 以テ報告シ置キタル本官ニ對スル談話ト其精神  
 ヲニスルモノニシテ自家ノ前途ニ不安ヲ感シタル結  
 果若シ日本ニシテ近々ハ内滿洲ニ地步ヲ進メントノ  
 意向アラバ先ヅ其意ヲ抑一置キ其力ニ倚頼シ  
 テ前途ノ立場ヲ得ント欲スルニ難ルモノト認メラ  
 ル之ニ對シテハ我方ニ於テ固ヨリ輕々ニ應答スギニ  
 アズ高ホ今日迄ノ如ク即カズ離レズ我態度ニ煩  
 累ヲ來サシ程度ニ於テ引續キ接觸ヲ保ツノ  
 外無之方面ニ關スル廟議ノ御決定次第ニヨリ  
 テハ或ハ何等歟ノ手段ニ供スルコトモ可有之ト思  
 考セラル免ニ角張作霖ノ煩悶ハ若キ事實ニシ  
 テ是迄北京政府ヨリ出京ノ命ヲ受ケタルコトア  
 ルモ前途ヲ氣遣ヒテ歸ヲ左右ニ設ケ容易ニ  
 出京セズ又今後右命アリトス決シテ之ニ應ゼザル  
 意向ナラ旨語リ居レリ斯ル状態ナレバ今後北京

在奉天日本總領事館

MT 1614 6 , 1113

MT 1614 6 : 1112



政府が彼ニ対シ直接或ハ張錫慶ニ依リ執ラント  
 ル制取方法ノ如何ハ頗ル注意ヲ要スベキコト、認  
 メラル尚ホ先般大總統令ニヨリ當地塩運使ニ  
 任セラレタル鄧邦述が就任以前排斥ノ聲ヲ聞  
 キ未夕果シテ就任スベキヤ否ヤ決セザルカ如キハ張  
 作霖及其ノ外省人排斥ノ趣意ニ賛同スル一派  
 ノ仕事ニシテ又民政使孫百斛が自家ノ都合ニヨ  
 リ民政使ヲ辭シテ銀行業專務トナラント欲ス  
 ルモ容易ニ行ハレザル彼ノ後任ニ又々他省人ヲ置  
 クガ如キコト無キヤヲ憂慮セル張作霖等ノ意  
 向ニヨレルモノ、如ク交渉使于冲漢ハ其手腕  
 經歷ニ比シ責任重キニ過ギ且收入甚クシテ  
 位置ヲ維持スルニ困難ナルヲ以テ夙ニ辭職ノ  
 意アリ張錫慶又于ノ貴目足ラズレテ為ス無  
 キヲ知レル又之ヲ更迭セントセバ後任如何ニヨリテ最  
 ニ奉天省人タルノ故ヲ以テ極力于テ推薦シ趙爾  
 巽ニ迫リテ彼ヲ任命セシメタル張作霖ノ黙過  
 セザル所ナルベク此等ノ事情ニヨリ未ダ更迭ノコト  
 モ實現行ニ至ラザルモノナリト認メラレ  
 其他度支使榮厚、勸業道陳琪モ或ハ更迭ス  
 ベキヤノ風説アリテ官界一般ニ落着カザル形勢  
 ナリ右及報告候敬具

在奉天日本總領事館

MT 1614 6 1115

MT 1614 6 1114

530283

第3

長春

00079

530282

大正元年四月四日發

警務局

第一課

公債一九九號

大正元年十二月三十日

在長春

領事本部守一

外務大臣公爵桂太郎殿

長春知府更迭ノ件

張奉天都督ノ女婿ナル何厚琦ハ先般來長春知府ノ職ヲ辭スル為メ詳表提出中ナリシカ今般之ヲ聽許セラレ其後任ニハ双城府知府德養源任命セラル去セ七日事務ノ引継ヲ了シ候何ハ當地ニ人民ト合同ニテ營業居ル事業多ク當地在任ヲ希望シ居ルヘキニ不拘詳表ヲ提出シタルハ込入りタル事情アルモノナリ其子息カ某馬賊ノ出獄ニ関シ收賄シタリトノ風説アリテ民間就中審判廳長等ノ攻訐ヲ盛ナルモ其一ナリトノ事ニ候後任德ハ進歩的思想ヲ有シ日本員負ノ者ニシテ現ニ其三弟ヲ日本ニ遊學セシメ告リ又日本人ト共同企業中ノ事業モ不勘候ニ就キ同人カ冷州内滑ナル孟道台ヲ助ケテ當地方ノ行政ニ任シ候ニ於テハ日支人向ノ交情ハ密接ヲ加フヘキコトト期待致候御共々考ノ為メ右及報告候

在清國長春日本領事館

敬具

本件報告通牒先、外務大臣、伊集院公使、長谷川總領事、民政長官。

MT

1614 6 1117

MT

1614 6 1116

受00823號

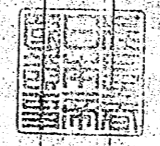
大正元年壹月 六日接受 警務 政務局

公信第200號

大正元年十二月三十日

在長春

領事 木部 守一



外務大臣公署桂太郎殿

東三省籌邊使來長一件

本月三十日午前十時四十五分當地着南滿列車三東  
三省籌邊使章炳麟(海太夫)參贊官張祖業及隨  
員八名隨一乘長致東地(道台衙門)一乘一號三  
ハ今般当地ニ東三省籌邊使公署ヲ設置シ章炳麟在  
長邊務一切ノ事務ヲ兼掌スルニ任ズ有之ハ右ハ

MT 1614 6 1118

REEL No. 1-0652

0275

530284

着長、修了、未、具体的、何等、公表、之、不、取  
敢、此、報告、申、進、以、此、事、

本件報告通牒先、外務大臣、北条、公使、奉天、總  
領事、北条、英、總領事、

右清國長春日本領事館

MT 1614 6 1119

00328

大正元年 七月 陸軍 主務 政務局

公信第六九號

大正元年十二月二十四日

在頭道溝分館  
主任外務書記生山崎誠一郎

外務大臣公爵桂太郎殿

支那官吏減俸案、  
當地支那官吏、他、日、聞、所、據、以、經  
費、節、減、為、之、這、回、東、三、省、都、督  
以下、各、官、對、一、律、現、奉、給、二、割  
減、給、之、規、定、相、或、吉、林、省、於、元  
都、督、以下、各、使、各、道、治、各、地、各、官

MT 1614 6 1120

530285

憲心に至る現奉<sub>レ</sub>こ<sub>レ</sub>割<sub>リ</sub>減給スル<sub>レ</sub>に  
 確定シ陽暦<sub>の</sub>年一月ヨリ之<sub>の</sub>實<sub>施</sub>  
 スル旨公信<sub>を</sub>橋<sub>シ</sub>タル<sub>に</sub>却<sub>テ</sub>稍<sub>不</sub>如<sub>意</sub>  
 色相見<sub>工</sub>何<sub>レ</sub>トシバ支<sub>那</sub>ノ<sub>レ</sub>年<sub>度</sub>末<sub>ル</sub>ニ  
 本月<sub>経</sub>過<sub>後</sub>年<sub>な</sub>始<sub>メ</sub>、以<sub>春</sub>ノ<sub>於</sub>テ<sub>他</sub>省  
 出<sub>身</sub>、官<sub>吏</sub>才<sub>を</sub>、幾<sub>分</sub>を<sub>更</sub>迭<sub>アル</sub>コト<sub>ト</sub>、思<sub>心</sub>  
 考<sub>サ</sub>レ<sub>何</sub>、問<sub>フ</sub>可<sub>及</sub>内<sub>報</sub>具<sub>ハ</sub>ス  
 此<sub>等</sub>事<sub>信</sub>寫<sub>、</sub>間<sub>島</sub>總<sub>領</sub>事<sub>、</sub>吉<sub>林</sub>總<sub>領</sub>事<sub>及</sub>ヒ  
 局<sub>子</sub>街<sub>分</sub>館<sub>を</sub>任<sub>シ</sub>テ<sub>送</sub>付<sub>給</sub>至<sub>ル</sub>ト<sub>ス</sub>

MT 1614 6 1121

REEL No. 1-0652

0277